

Case Study

支部ケース・スタディ

東海支部

SDGs映画祭の開催 映画で考える、わたしたちのSDGs。

スターキャット・ケーブルネットワーク(株)

DC推進本部クリエイティブ事業部 次長

鈴木 健之



映画上映とトークでSDGsを学ぶ・楽しむ。未来に繋がる一日にしよう。 映画で考える、わたしたちのSDGs。

名古屋市を中心エリアとする当社は、名古屋市中区錦二丁目をモデル地区として、なごや環境大学SDGs未来創造クラブで実施する身近な地域課題から持続可能な社会やライフスタイルへの転換を生み出すプロジェクト「SDGsまちづくりプロジェクトin錦二丁目」において、2021年11月に開催された「錦2丁目SDGs WEEKs」に賛同し、同地区で当社が運営しております映画館「伏見ミリオン座」を中心とした名古屋の街なか各所で「NISHIKI-2 SDGs映画祭」を2021年11月6日(土)から20日(土)まで開催しました。



「NISHIKI-2 SDGs映画祭」ポスター

映画を通じてSDGsについて、知る・楽しむ・学ぶ(知・楽・学)の場を提供するため、SDGsのテーマにつながる「映画」の上映やVRの新技术を用いた体験型の「トークイベント」「ワークショップ」などを実施しました。

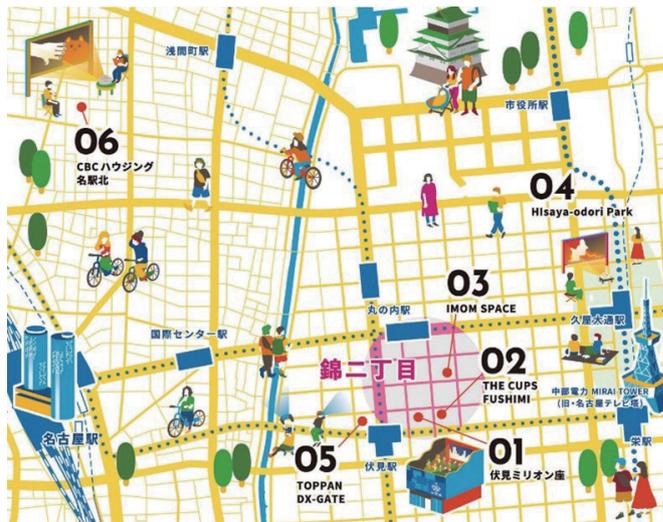
この「Nishiki-2 SDGs映画祭」の公式アンバサダーには、ドラマ、映画、音楽、小説などさまざまな世界で活躍されている女優の中江有里さんが就任し、広報活動のサポートほか、伏見ミリオン座で開催されるクローゼンイベントにも登壇いただきました。

「SDGs未来都市」に選ばれ、持続可能なまちづくりを目指している名古屋市において、作品上映やトークイベントなど、楽しみながらSDGsを体験できる1日を提供するとともに、参加者から生まれる小さな気づきが、未来そして世界に繋がる想いとなりつながる、新しい映画祭となりました。

会場や同時期イベント等複数の事業者と連携

2020年に実施された名古屋市・なごや環境大学・錦二丁目エリアマネジメント株式会社とのSDGsワークショップをきっかけに、2021年に企画し開催された本映画祭は、同年開催の「錦2丁目SDGsWEEKs」(主催:名古屋市・「なごや環境大学」実行委員会・錦二丁目エリアマネジメント株式会社)の併催として実現され、名古屋市・なごや環境大学の後援事業ともなり、また文化庁令和2年度第3次補正予算事業ARTS for future!にも採択されるなど官

民一体の事業として、名古屋市行政関係者からも意義のある事業であったと感謝のお言葉をいただきました。会場を錦二丁目だけに限定せず、名駅エリア・CBCハウジングセンタと栄エリア・久屋大通公園のPark-PFI事業にて、その運営管理を実施しているHisaya-odori Park DESIGN CENTERとも連携し、都市公園内も会場として開催されました。名古屋市(環境局)からは、SDGsをテーマにした錦二丁目の取り組みをモデルケースにして今後市内に広げていく計画があると聞いており、当社も今後様々な地域団体と連携し、地域発展に貢献することが「三方良し」のイベント事業となることを実感いたしました。



会場MAP



映画祭イベントの様子

映画祭の概要

名称：「Nishiki-2 SDGs映画祭」

URL：https://nishiki2-sdgsff.com

主催：スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社

期間：2021年11月6日(土)/7日(日)/9日(火)/12日(金)/13日(土)/14日(日)/18日(木)/19日(金)/20日(土)

後援：名古屋市・なごや環境大学・錦二丁目エリアマネジメント株式会社

※文化庁令和2年度第3次補正予算事業 ARTS for the future! 補助事業

協賛：株式会社大林組・株式会社関電工・シンクレイヤ株式会社・株式会社シーテック・住友電気工業株式会社・株式会社名古屋銀行・NTPグループ

協力：株式会社KADOKAWA・CBCハウジング未来つなぐPROJECT・Hisaya-odori Park Design Center・ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会・株式会社ナノボ・株式会社RAKUDO・凸版印刷株式会社

会場：①伏見ミリオン座 ②THE CUPS FUSHIMI ③IMOM SPACE ④Hisaya-odori Park

⑤TOPPAN DX-GATE ⑥CBCハウジング名駅北

名古屋の街なか複数拠点を会場として、SDGsに関わる映画やドキュメンタリー16作品を上映。上映後には、監督やジャーナリスト、専門家などゲストを招き、トークショーを開催。参加者と一緒に、日本が進むべきSDGsの道標について、明日からできる行動について考えました。ワークショップや、VRの新技术を用いた体験型のトークイベントを開催するなど、ただ観て、聴くだけでは終わらない、参加者も考えて行動することを目指した映画祭です。

小さなきっかけから、「Nishiki-2 SDGs映画祭」が伝えたかったもの

約2週間の日程で開催された本映画祭では、映画館・公園・カフェ・セミナー会場等で、時には食事をしながら、音楽を聴きながらSDGsに触れ、楽しんでいただきました。オープニングイベントで上映された『ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ』(田部井真一監督)では年齢・性別問わず、幅広い層が参加されてほぼ満席となりま

した。上映後のトークセッションでは田部井監督に登壇いただき、制作への想い、ムヒカ氏を追い続けた理由などが語られるとともに「映画を通じてSDGsを自分ごととしてかんがえていくこと」に触れ、そのためには「主語を小さくすること」が大切だと語られたことが印象的で。本映画祭が目指したことと共鳴いたしました。



【ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ】の田部井真一監督によるトークセッション

食事付き上映会は4イベント実施され、映画と言葉、食から考える“海洋プラスチック問題”のイベントでは「個人の意識と行動で守れる命・環境がある」ということを養殖漁業者の浅尾大輔さん、元航海士の間瀬雅介さん、リサイクル会社CEO多田純二さんと参加者全員で学びました。カフェを会場にした上映会は『ア・フィルム・アバウト・コーヒー』を上映したあとに、劇中に登場するコーヒー農場主とオンラインでつなぎ、トークセッションに参加していただくサプライズもありました。

最終日クローズドイベントに登壇いただいたのは公式アンバサダー中江有里さんとフォトジャーナリスト安田菜津紀さんです。参加者からSDGsに取り組むなかの悩みに関してのご質問に「SDGsは簡単ではないテーマではあるけども、ちょっとしたことをきっかけに」と中江さんよりアドバイスをいただき、安田さんからは「深く知ろうと考える人」「一歩を踏み出してみようと思う人」「周囲を巻き込みながら行動を続ける人」が増えることが大切ということ学びました。



公式アンバサダー中江有里さん(中)とフォトジャーナリスト安田菜津紀さん(右)



カフェ会場での開催も実施

また、VRの新技术を用いた体験型のトークイベントでは、最新の映像技術を使用した観光・教育について多くの行政・企業担当者にVRを体験していただきました。

短い期間でしたが、本映画祭が少しでも誰かの考えるきっかけとなっていれば嬉しいです。

当社ではこのようにSDGsを映画・トークイベントで考える企画／運営やVRを体験する事業を企画しております。是非お気軽にお問合せください。

【お問い合わせ先】 スターキャット・DC推進本部クリエイティブ事業部
creative@starcats.co.jp



VRの新技术を用いた体験型イベントも